

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年2月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1070400674
法人名	咲願 株式会社
事業所名	グループホーム さがん
所在地	群馬県伊勢崎市富塚町1159-3 (電話) 0270-31-3588
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2丁目29-5
訪問調査日	平成21年1月23日

【情報提供票より】(平成21年 1 月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6.4

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1 階建ての 階 ~ 1 階部分
------	-----------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 15,000円	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	300 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 1 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77.6 歳	最低	60 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	久保医院、山王病院、共栄歯科
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームが市街地に設置されているため、利用者は毎日のように、近隣の公園やスーパー等へ出かけており、ホームの中だけで過ごすことなく、気分転換を図れるよう外出支援を行っている。一人ひとりの思いや力量等に応じて、食事づくり、掃除、洗濯物(干し・たたみ)、犬の世話等役割を持って生活できるよう、場面づくりの工夫をしながら自立に向けた支援を行っている。利用者と職員が共に明るくゆったりと生活しているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>重度化や終末期に向けた方針の共有については、重度化に伴う意志確認書、終末に対する対応指針を定め、本人・家族等関係者全員で方針を共有しており、改善されている。評価の意義の理解と活用、現状に即した介護計画の見直し、災害対策については、改善されておらず課題として残されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の結果を踏まえ、職員会議で話し合い具体的な改善に取り組んでいるが、今回の自己評価については、管理者が作成しており、全職員での取り組みはなされていない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>概ね2ヶ月に1回開催されている。事業所から運営状況報告等を行い、メンバーからの意見や要望を受け、話し合いを行っている。そこでの意見等を日々のサービス向上に活かすよう努めている。希望する家族には会議録を送付している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時、運営推進会議時に意見や要望等を聞くよう努めている。年2回サービスの満足度や要望等を聞くアンケートを実施している。家族等の意見を運営に反映させるよう努めている。事業所の苦情相談窓口や外部の苦情相談機関を文書で明示している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩や買物時に近隣の人達と挨拶を交わしたり、野菜等を頂くこともある。地区の祭りに参加している。ホームが主催する見学会、さがん祭りに地域住民を招いたり、地元商店が出店する等、地域との交流や連携が図られている。</p>

## 2. 調査報告書

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	サービスのあり方を解り易く示した、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくりあげている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念を日々の方針や目標を具体化した内容で職員に伝え、日常的に話し合いながら理念の実践に向け取り組んでいる。理念は玄関、事務所に掲示してある。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物時に近隣の人達と挨拶を交わしたり、野菜等を頂くこともある。地区の祭りに参加している。ホームが主催する見学会や「さがん祭り」に地域住民を招いたり、地元商店が出店する等交流が図られている。東京福祉大学の実習生や地域ボランティアの慰問(歌、踊り、楽器演奏等)を受け入れている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果を踏まえ、職員会議で話し合い具体的な改善に取り組んでいるが、今回の自己評価は管理者が行っており、職員間での取り組みはなされていない。	<input type="checkbox"/>	評価は一連の過程を全職員で取り組むことで、日常のケアの振り返りや見直しが可能となり、サービスの質の確保・向上に活かしていけるので、全職員で取り組んでほしい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催されている。事業所から運営状況報告等を行い、メンバーからの意見や要望を受け、話し合いを行っている。そこでの意見等を日々のサービス向上に活かしている。希望する家族には、会議録を送付している。	<input checked="" type="checkbox"/>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に市担当者と連絡や情報交換等を行っている。市主催の「緑化フェア」に、ホームが花の栽培で参加した。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には、利用者の健康状態や暮らしぶり、職員の状況等について報告している。金銭管理の報告は定期的に行われている。希望する家族等には写真を配付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族等に出席してもらい、意見等聞くよう努めている。年2回、サービスの満足度や要望等を聞くアンケートを実施しており、家族等の意見を運営に反映させるよう努めている。事業所の苦情相談窓口や外部の苦情相談機関を文書で明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は最小限に抑えるよう努力をしている。職員が代わる場合には、先輩職員が指導しながら共に支援にあたり、利用者へのダメージを防ぎ馴染みの関係が築かれるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、会議の際に勉強会を行っている。実践者研修、社会福祉協議会や東京福祉大学主催の外部研修に交代で参加している。職員会議で研修の報告を行い、資料は回覧している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム開設希望者に、見学や現場実習の受け入れを行っており、情報交換等しながら交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人、家族等に気軽にホームを見学してもらい、お茶を飲んだり、食事をしながらホームの雰囲気馴染めるよう配慮している。本人や家族等から希望や不安に思っている事を聴き、一人ひとりに合わせた対応をしながら徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの生活暦や力量等を把握し、掃除・食事づくり・買物・手芸等職員と一緒にしている。日常生活場面で利用者から学ぶことも多く、共に過ごし支えあう関係づくりに留意している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の希望や意向を把握するよう努めている。家族等からも情報を得ながら、可能な限り本人の希望や意向を尊重した支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族等の希望や意向等を確認し、介護計画に反映させるよう努めている。月1回職員会議を実施しており、全職員が意見や気づきを出し合い利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、職員会議の中でモニタリングを行い、意見や提案を介護計画の見直しに反映させている。介護計画の見直しは6ヶ月に1度と状態の変化に応じて、現状に即した新たな計画を作成している。	○	新たな要望や状態に変化が見られない場合でも、本人・家族等の意向や状況を確認しながら、介護計画の遂行状況、効果等を評価し、少なくとも3ヶ月に1度は介護計画の見直しを実施して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の要望や状況に応じて、協力医への受診・通院介助等の必要な支援は柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、本人・家族等に説明しながら希望を把握し、希望するかかりつけ医で適切な医療を受けられるよう支援している。週1回、協力医が往診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意志確認書、終末に対する対応指針を定めており、本人・家族等に説明し意志の確認を行っている。状態の変化に応じて、その都度本人・家族等の要望を確認し、かかりつけ医、看護師等と話し合い、関係者全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮しながら、それぞれの状況を踏まえた上で支援を行っている。本人・家族等の個人情報の保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床時間、食事の時間、入浴の時間、買物、帰宅等一人ひとりのペースを大切に、その時の希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物や調理、後片付け等の一連の作業を職員と一緒にやっている。利用者と職員が同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をしている。サポートの必要な利用者には、さりげなく支援している。菜園で採れた野菜が食卓に並ぶこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回入浴支援を行っている。利用者の希望する時間帯(朝～夜迄)やタイミングに合わせて入浴が楽しめるように支援している。声かけ等で意思の確認を行ってから対応し、入浴を拒否する方には清拭、足浴、シャワー浴等で支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理、後片付け、畑仕事、手芸、犬の世話(エサやり・散歩)、誕生会、敬老会、バーベキュー、季節の花見等で役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に応じてほぼ毎日、近隣の公園へ散歩に出かけたり、スーパーへ買物に出かけている。畑仕事、犬の散歩、週1回のドライブや季節の花見等、日常的な外出支援が行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており、出入口にセンサーを設置し、日中は鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の協力を得て、避難誘導訓練、消火訓練を実施している。運営推進会議等で地域住民の協力が得られるよう働きかけているが、協力体制は得られていない。地域の交番や消防署にも定期的に情報提供を行っている。	○	いつ起こるかわからない災害に備えて、実際に地域の人達の協力が得られるよう、これからも協力体制づくりに取り組んでほしい。利用者の安全を守るためにも、全職員でくり返し実践訓練を行ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を記録し、職員は情報を共有しながら支援している。利用者の好みに配慮したり、野菜が多く摂れるよう工夫をしながら、栄養士が献立を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体は家庭的で明るく、ウッドデッキや家庭菜園がある。構造的にホールと台所が一体となっており、利用者と職員と一緒に食事の準備や後片付け等を行っている。居室以外に畳の部屋もあり、居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥、鏡、衣装ケース、椅子、飾り棚、寝具等馴染みのあるものや好みものが持ち込まれており、落ち着いて過ごせる場所となっているように見受けられた。		